

▽▲海員春闘▲▽ 大衆討議 現場組合員の声を集約

★静岡支部 大衆討議期間 1月5日～2月15日まで★

今次大衆討議訪船では、船員の働き方改革を始めとする各種労働関係法令ならびに労働協約の履行状況を確認のうえ、次年度協約改定要求案を説明した

静岡支部が担当する現場は、国内部門では内航3社(11隻)、沿海・港湾8社(24隻)となっており、水産部門では、遠洋マグロはえ縄漁船、海外まき網漁船、遠洋・近海カツオ一本釣り漁船、金目鯛底はえ縄漁船など33社(65隻)で、合計44社(100隻)を担当しており、大半が個別交渉会社となっている。

支部は引き続き現場組合員の声を集め、地区闘争準備委員会を経て3月からの協約改定交渉に全力で取り組む。

◆各部門の主な意見

水産部門	漁船員の後継者不足が顕著となっており、若年漁船員を確保するためにも休暇制度の改善を図ってほしい
	低軌道衛星通信設備が操業海域でも感度が良いか早期に確かめて、問題なければ設置を検討してほしい
	生産奨励金制度の近代化に取り組んでほしい
	海まき船では機関部の業務負担が重く、機関部手当を増額すべき
国内部門	物価が高騰しており基本給のベースアップを最優先に取り組んでほしい
	船員職業の魅力向上のため休日休暇の充実、乗船期間の短縮を検討していただきたい
	年金支給開始年齢の引き上げに整合して定年・退職年齢の引き上げを図ってほしい
	年間臨時手当については頑張ってもらいたい

「海員だより」